

ocean+α

©ocean+ α ウェブマガジンの二次配  
付および画像・文章の複製、二次使  
用を禁じます

WEEKEND DIVING  
@ HACHIJO ISLAND

ウィークエンド・ダイビング最強説

# 八丈島

色鮮やかなハイビスカスやストレッチアが咲き乱れる八丈島で、  
ダイバーを待っているのは、  
世界最大級の暖流・黒潮が直撃する“八丈ブルー”の海。  
そんな“東京の南国”まで、空路でわずか50分。  
船旅も、眠っている間に到着するので時間のロスがない。  
取材班は、竹芝桟橋22:30出航の「橘丸」に乗船し、  
アクセス、ダイビング環境において、  
ウィークエンド・ダイビング最強のダイビングサイト八丈島へ、いざ!

photo=関戸紀倫 text=寺山英樹

special thanks=東海汽船 Sponsored=アラベスク

design=Panari Design

急に水深が落ちるので、ロープを握りながらスロープを下ってエントリーするスタイル。ダイナミックなポイントの証だ



CHAPTER#01

# BEACH DIVING

黒潮直撃の東京の南国、ビーチダイビング・アイランド!



エントリー直後、ムロアジの大群が登場



## 八丈島、“ウィークエンド最強説”のアクセス事情と八丈ブルーの海

「橋丸」は、到着予定を少し過ぎた9時ごろ、八丈島の八重根港に着岸。すこぶる快適だ。

ダイビングでは、“都市部からの距離と海の良さは比例する説”が定番だが、遠いほど疲弊も大きく、週末の少ない休みで潜ろうとすれば、寝不足で潜ることになる。

その点、ホテルとアクセスを兼ね備え、22時30分発、8時50分着の八丈島の船旅ほど時間が有効に使える航路もない。三宅島や御蔵島だと、近いけれど、5～6時到着はちょっと早い。早起きの日帰り伊豆半島やジェット船の大島より、都会の喧騒から離れてたっぷり眠れる、9時到着の八丈島のちょうどいい快適さを、まずは体調が教えてくれた。

そして、“都市部からの距離と海の良さは比例する説”の通り、伊豆諸島のほぼ最南端の有人島である八丈島（本当の最南端は青ヶ島）の海は、暖流・黒潮の影響が色濃く、温帯と熱帯がミックスした独特な魅力を持つ。

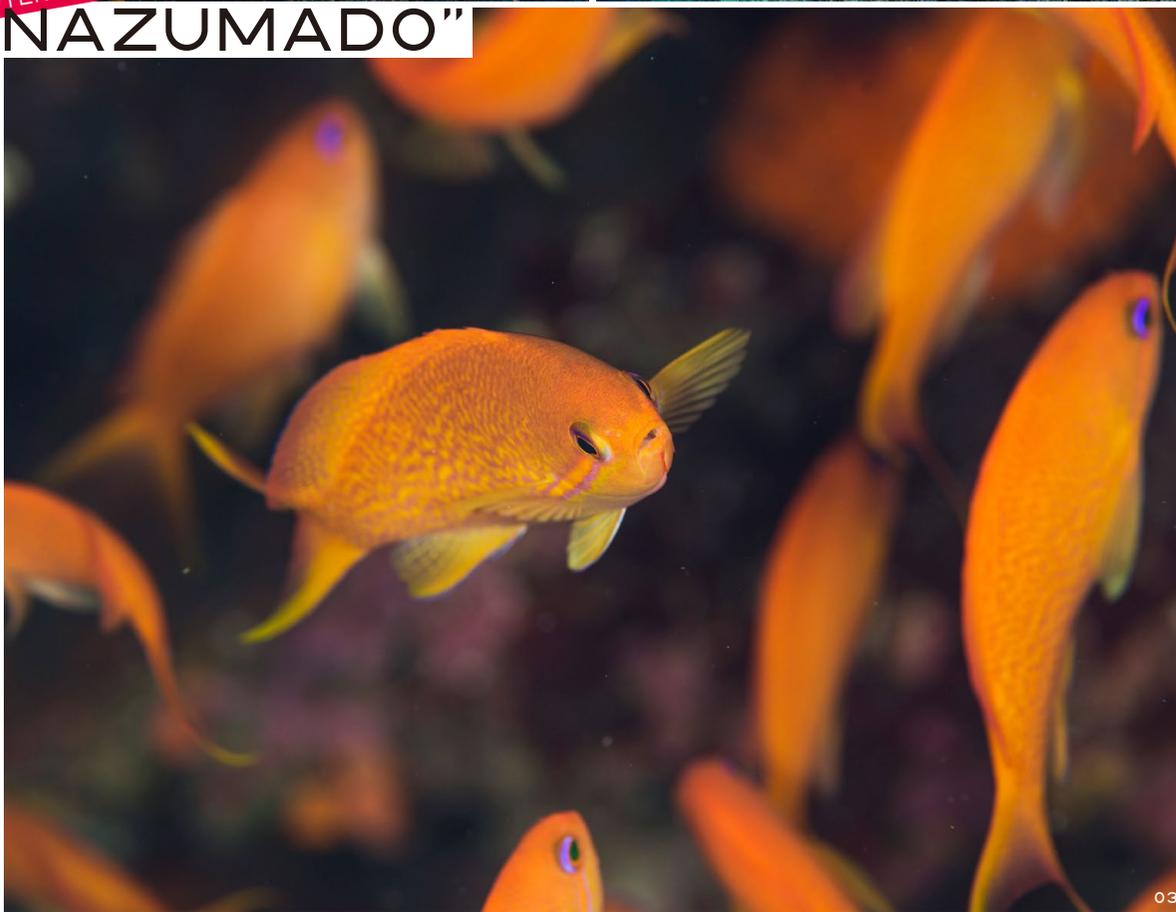
ファーストダイブは、人気No.1のスーパービーチ「ナズマド」。ロッククライミングのようにロープを伝ってスロープを下っていくと、いきなり足場がなくなり、ズドンと水深が落ちる。黒潮のぬくもりと透視度30mオーバーの八丈ブルーの世界にいきなり身を置かれ、ムロアジやカンパチの群れの歓迎。さらに、八丈島のシンボル・アオウミガメが現れ、メインの根となる「馬の背」へ誘われ……と、豪華な幕開け。

効率の良い“アクセス”と“海の実力”を兼ね備えた八丈島に、1本目から“ウィークエンド・ダイビング最強説”を感じた。

八丈島のシンボル、アオウミガメと大接近! ビーチポイントでもよく見られ、ダイバーにも比較的慣れている



# NAZUMADO"



01-03.根や沖へ向かったドロップオフにはキンギョハナダイが爆発している  
 02. 関戸カメラマンが“八丈島らしいシーン”として紹介してくれた、「馬の背」を岸側から見た柱状節理に海藻の付いた壁。マグマが海水に流れ込んで冷やされた際に、アコーディオン状に固まったのだという 04. メインの根「馬の背」のアーチ。オレンジ色のイボヤギが彩を添え、八丈島を代表するフォトジェニックシーン 05. ミヤケテグリを発見。黒潮の影響が色濃いポイントなので、マクロ探しもおもしろい

## まるで外海のような迫力！ スーパービーチ「ナズマド」

八丈島の特徴といえば、ビーチポイントをメインに潜るスタイル。その理由は、ポート事情などの諸事情もあるが、誤解を恐れずに言えば、「ボートでなくてもビーチで十分」ということ。

同じくビーチダイビングの盛んな伊豆半島と違うのは、ビーチ特有の箱庭的な楽しみ方も含みつつ、八丈島の場合、外海のポートポイントのようなダイビングができてしまうこと。そして、そんな特徴をすべて詰め込んだ海が、“スーパービーチ”の異名を持つ八丈島人気No.1の「ナズマド」なのだ。

対岸の八丈小島との間は潮の通り道になっていて、潮当たりが良く、透明度も抜群。溶岩島が形成する、アーチやケープなどのダイナミックな地形にあふれ、その周り

を色とりどりの魚たちが群れ舞う様子を堪能できる。さらに、マクロ生物も豊富で…と何でもかんでも詰め込んでいるように聞こえるかもしれないが、本当にダイビングのバリエーションが何でも詰め込まれたポイントなのだ。



## WEEKEND DIVING 八丈島 ウイークエンド・ダイビング 最強説

2017 Autumn [Hachijyojima]

# YAENE" & "SOKODO"



## 八丈島 No.1のポテンシャル 「八重根」

「ナズマド」と双壁を成すスーパービーチ。砂地、岩礁、巨大アーチなど地形のバラエティが豊富で、生物も多様だ。アベレージの高さは八丈島随一。

アオウミガメがよく見られるポイントで、人にも慣れているので割と近づける。例年、4～6月に見られるアオリイカの産卵も見どころだ。



01. 伊豆半島で見られるアオリイカと異なり、サイズがひと回り大きい。目の前で乱舞するシーンは大迫力! 八丈島のアオリイカの産卵はひと味違う? いや、ひとサイズ違います! 詳細レポート [https://oceana.ne.jp/from\\_oceana/69352](https://oceana.ne.jp/from_oceana/69352)  
02. エントリー付近と沖には、砂地が広がっていて、潜っているだけで開放感! 03. レアなアサヒハナゴイも登場! 04. ベニシボリ。かつて、八丈島を代表する美しい「ウミウシ」として知られていたが、その後、貝の仲間に分類された(写真01～04「八重根」)

## サンゴの群生が広がる 「底土」

南国のような海をもっとも感じられるポイントといえばここ。ここまで見事なサンゴの群生がビーチエントリーで見られるのも珍しい。アオウミガメもよく見られるので、サンゴ+アオウミガメという八丈島らしいシーンが撮影できる。



テトラポッドで囲まれた湾内に、テーブルサンゴがびっしり。アオウミガメもよく見られる(底土)



CAPTER #02

# BOAT DIVING

ボートでなければならぬ理由がある！



ボートダイビングの見どころは、迫力ある巨岩・奇岩のアート

## 火山が創る奇岩アートを体感！

「ボートいらずのスーパービーチ」と紹介しておいてなんですが、今回ガイドをしていただいた「アラベスク」の小金沢昌博さんいわく、「八丈富士と三原山という2つの火山を有する八丈島らしい、溶岩島が形成するダイナミックな地形を体感するには、やっぱりボートポイントがオススメです」ということで、島唯一のボートダイビング専門店「八丈島ダイビング スズミ」の「つる丸」に乗船し、ボートポイントへ。

小金沢さんオススメの八丈小島は海況の都合で潜れなかったが（次回のお楽しみ）、島の東側イチオシのボートポイント「イデサリ」へエントリー。

八丈ブルーの眼下に、いきなり奇妙な形状の根が見える。北へ伸びた背が、西へ鋭角に曲がり……複雑な形状を確かめるべく潜降して見上げると、アーチになりつつ横にはトンネルが……。何とも表現しづらいこの複雑な地形は、土の上に溶岩が流れ込み、年月と波が土だけ削り取ってできたともいわれている。

このような迫力ある奇岩アートを体感できるのは、やはりボートポイントなのだ。



02



01

01.それぞれのイスから、くもり止めをすすぐ水が出てくる。ちょっとした小技が便利 02.エキジットする際はフロートを上げてピックアップしてもらうスタイル 03.根のくぼみには、外洋性のテングダイが見られる。また、根の周囲にはツバメウオやキンギョハナダイが群れている



03

今回お世話になったボート「つる丸」。船体に大きく「海は恋人」と書かれ、かわいいイベントも。イルカやクマノミは定番だが、イロブダイyg. がペイントされているところがダイバー心をくすぐる（写真上）

ボートダイビング専門店  
「八丈島ダイビング スズミ」  
<http://hwbb.gyao.ne.jp/suzumi-d-pg>

WEEKEND DIVING 八丈島 ウイークエンド・ダイビング 最強説

2017 Autumn [Hachijyojima]

# IDESARI”

八丈ブルー×火山アート  
ジオグラフィックな海で地球を感じる！

# SEA LIFE 10

八丈島で潜ったら会いたい！ 海の生物10



**レンテンヤッコ**  
オレンジの地に青紫の斑点が美しく体色が美しい。水深10mほどの場所で、ハーレムを形成する。一番大きく、頭に青紫色の縞模様が入っているのがオスだ。晩夏～初秋の頃、水深20m以深の岩陰に幼魚が姿を現わす



**トサヤッコ**  
潮通しのいい場所を好み、水深20m前後の場所を泳ぎ回っている。すべてメスで生まれ、成熟するとオスに性転換する。メスは頭部と尾びれの付け根が黒いが、オスはその黒がなくなり、背びれ近くに黒い横縞が入る



**ユウゼン**  
体長15cmほどの日本固有種だが、八丈島や小笠原など一部海域で見られない。チョウチョウウオの仲間としては珍しい淡い色合いで存在感を放つ。和名の「ユウゼン」は友禅染から。通常はペアで行動しているが、5～6月、および10～11月ごろに中層で群れをなすことも。ときに200匹もが密集するといわれ、この「ユウゼン王」を求めて通うダイバーも多い。狙うなら「ナズマド」へ60



**アオウミガメ**  
体長80～130cm、最大200kg。絶滅危惧種に指定されているが、八丈島では高確率で遭遇可能。ウミガメのほとんどは肉食だが、アオウミガメはおもに海藻を食べる。そのエサとなる藻場が豊かなことが理由



**ナメモンガラ**  
八丈島では「トミメ」とも呼ばれ、食用とされるほど個体数が多い。頭部のトゲは出し入れ自在。敵から身を守るため穴に隠れる際に、つかえ棒の役割を果たす



**シロボシスズメダイ**  
ぜひ狙いたいのが幼魚。青とも紫とも言えない、淡く輝く絶妙なニュアンスカラーで、見るものを虜にする。大人になるにつれ、スズメダイの例にもれず灰色へと体色を変えていく。成魚は体長17cmほどになる



**ハタタテハゼ**  
旗を立てるようにピンとたった背びれが、「ハタタテハゼ」たるゆえん。水深20m程度の潮通しがよい岩礁の斜面に巣穴を作る。巣穴から出てペアで低層をホバリングしながら、流れ着くエサを捕食していることが多い



**セナキリルスズメダイ**  
背に入った一筋の黄色が目印。スズメダイの仲間にしては深場の水深25～52mに生息するが、八丈島では水深15mあたりから見られる。緩やかな斜面を好み、ナワバリ争いを行っていることもしばしば。体長は7cmほど



**コンガスリウミウシ**  
冬～春にかけて浅場で見られる、体長3cmほどのウミウシ。青色をベースに黒の縞と白の斑点がランダムに入っている。研究が進んでおらず、詳しい生態は未だ不明だ。八丈島と小笠原でしかほとんど確認されていない



**ジャパネズビグミシシーホース**  
体長1cmに満たない、超ミニサイズのニューアイドル。まだ研究途上のタツノオトシゴの仲間だ。水深25m以浅の岩場や海藻についていることが多い。住み着くと動かないので、一度見つけてしまえば出会いやすい

WEEKEND DIVING 八丈島 ウイークエンド・ダイビング 最強説

2017 Autumn [Hachijyojima]



見つけたブルードラゴンは3個体。すべて体長は3cmほど。その幾何学的な模様と美しい色の組み合わせは、まさに自然の創造した芸術作品

CAPTER#04

# BLUE DRAGON

美しすぎるウミウシ ブルードラゴン

**黒潮のミラクル！  
ダイバーなら  
一度は会いたい  
ウミウシを発見**

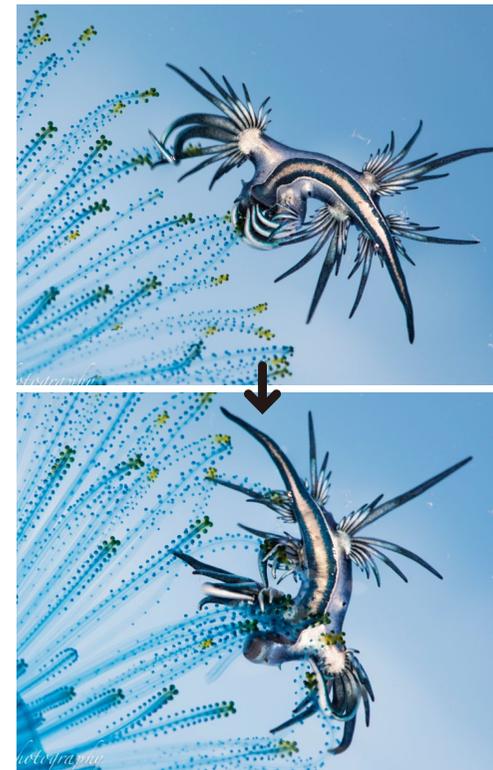
「八重根」でそろそろエキジットしようかと、エントリー口付近の水面に溜まっている漂着物を見ると……美しすぎるウミウシとして世界中で話題のブルードラゴン（アオミノウミウシ）にミラクルな遭遇！

外洋性といわれるブルードラゴンは、普

段、ギンガクラゲ、カツオノエボシ、カツオノカムリなどのクラゲに着生して浮遊生活をしており、外洋から風向きによって沿岸にクラゲごと流れ着いたときにチャンスとのこと。まさに、八丈島のポテンシャルを象徴するような出会いだ。

黒潮の影響色濃い八丈島なら、外洋から流されてきた漂着物の中を探せば、ほかにもさまざまな生物に遭遇できるかも!?

詳細レポート▶▶ <https://oceana.ne.jp/domestic/69347>



**貴重な捕食シーンを目撃！**

おもむろに、翼のような腕のようなエラを広げてギンガクラゲを抱きかかえ、あんぐりと大口を開けて、触手にかぶりつく(写真01)

ギンガクラゲが自ら切断した触手を、1本うどんのように、口を開けてシュッと飲み込んだ(写真02)



ブルードラゴンを見つけたのは水面に溜まっている漂着物の中

WEEKEND DIVING **八丈島** ウイークエンド・ダイビング 最強説

2017 Autumn [Hachijyojima]

## AFTER DIVE

これだけ遊べる! 取材班の欲張りONEDAYプラン・ドキュメント



09:30 八丈富士「ふれあい牧場」

八丈富士の中腹に位置する、入場無料の牧場。放牧されている牛がのんびりと草を食む姿を観察しながら、島の南側が一望できる

13:00  
取材班イチオシ!  
Xカートでドライブ

X-KART (エックスカート)でGO! 公道を走れるが、街中は危ないので、八丈の美しい海と自然を堪能できる海岸線を走るのがオススメ。

モバイルレンタカー  
<http://www.mobil-rentacar.com>  
Tel.04996-2-0148

10:30 裏見ヶ滝

亜熱帯の原生林に囲まれた遊歩道を10分ほど進むと滝が現れる。癒しのマイナスイオンをたっぷり浴びながら、滝の裏側を歩ける



11:00 温泉



滝入口付近には、水着着用の混浴温泉「裏見ヶ滝温泉」がある。入浴無料。時間がない場合は、近所にある「足湯きらめき」でも



14:00 ふるさと村

玉石垣が残る大里地区の路地を進むと到着。伝統工法で修復された民家や移築保存された高床式倉庫など貴重な建物がずらり(写真左)。古民家で島民の方がお茶を淹れてもてなしてくれる。(金・日・祝、13:00~15:00) 八丈島の歴史に耳を傾ける貴重な時間が過ごせる(写真上)

## 1日3便の飛行機に合わせてプランニング

帰りの飛行機は、1便9:00発、2便14:00発、3便17:10発の3便。2便以降ならば、半日~1日遊んでから帰れる。

唐突だが、八丈島には温泉が7ヶ所ある。太平洋を見渡す絶景で人気を博す「みはらしの湯」をはじめ、地元民で賑わう「ふれあいの湯」など、その魅力はさまざま。八丈島に来たなら、温泉は絶対外せない! なので、温泉を軸にプランを考えてみた。

2便帰りの半日なら

「温泉+ごはん」。もしくは、早足で「八丈富士(など自然)+ごはん+温泉」ぐらいになるだろう。

欲張りな取材班は、もちろん3便をチョイス。そして、小金沢さんに「めいっばい遊ばせてください!」とお願いした(左記タイムライン参照)。

すると、自然にアクティビティに島の文化体験に……と盛りだくさんのプランを案内してくれた。肝心の温泉は、秘湯・裏見ヶ滝温泉へ。脱衣所はキレイとはいえないし混浴だが、うっそうと茂る原生林の中での湯浴みは至福! 海も陸も楽しんでこそこのダイブトリップだと改めて実感した。

八丈島、最高!



17:10  
八丈島空港発



18:10  
羽田空港着

絶景スポット巡りレポート

⇒ [https://oceana.ne.jp/from\\_ocean/65116](https://oceana.ne.jp/from_ocean/65116)

陸上観光レポート

一挙出しレポート  
⇒ [https://oceana.ne.jp/from\\_ocean/63453](https://oceana.ne.jp/from_ocean/63453)

WEEKEND DIVING 八丈島 ウィークエンド・ダイビング 最強説

2017 Autumn [Hachijyojima]

GOURMET

郷土料理も要チェック!

本場で食べる郷土料理は格別だ。漬けにしたネタとからして作る島寿司や独特の発酵臭がクセになるくさや、海藻の煮ごりのブド。明日葉は天ぶらのほか、ビールにも。ぜひ、島独自の発展を遂げた焼酎と合わせたい。おもに麦焼酎、芋麦焼酎、芋焼酎の3種類がある。



ジャージー牛の乳製品

八丈島では、全国に1万頭ほどしか飼育されていないジャージー牛が放牧されている。旨味の濃い新鮮なミルクを加工した乳製品は必食。チーズ、プリン、ヨーグルトなどさまざまなが、おすすめは濃厚なソフトクリーム。ダイビング帰りに立ち寄るべし。「ジャージーカフェ」のソフトクリームonゼリーのコーヒゼリー(500円、写真左)は絶品!



衝撃の明日葉ビール。明日葉のさわやかな香りがビールの苦みにマッチする



郷土料理、刺身が評判の居酒屋「梁山泊(リョウサンバク)」。島寿司は当日14:00までに予約が必要。梁山泊 Tel.04996-2-0631

タイムセールを狙え!

およそ18:00を過ぎると、街中のスーパーでは、「タイムセール」ハトルが繰り広げられる。新鮮な刺身や島寿司、惣菜まで、一気にプライスダウン。10分前にスタンバっていたにも関わらず、常連の島民にお目当てのエンガフを持って行かれるというトホホな洗礼も。八丈ストアでは18:30から一気に半額!

TRAVEL TIPS

無駄なく潜って遊べる! 週末ダイビングツアー

行きは、たっぷり眠れる船旅でも、所要時間たったの50分の空路でも、9時前に到着。時間を有効に使える上に、体調も万全。ダイビングを心ゆくまで楽しめる。

一方、帰りの手段は、「週末ダイビング」のスケジュールを考えると空路がおすすめ。1日3便中、一番遅い17:10発の便をチョイスすれば、旅の最終日を移動に費やすことなく、めいっばい八丈島の陸の魅力を堪能することができる。また、09:00か14:00便に乗って早めに帰り、旅の疲れを癒すのもいいだろう。

もちろん、「橘丸」でのんびり船旅しながら、旅の余韻にひたるのも捨て難い。

悩ましいのがコスト。時期にもよるが、往復運賃は船旅も空路も大差ないが、船旅+空旅の組み合わせだと割高になるのだ。

コストを考えないなら、行きが船旅、帰りが

空路もオススメだが、土日で潜って遊ぶなら空路が効率よくリーズナブル。3日間以上休みがあるなら、それ自体が楽しい船旅とお好みで計画を立てよう!

TIME TABLE 2017年10月現在

東海汽船「橘丸」	ANA
竹島棧橋発 → 八丈島着	羽田発
22:30 08:50	07:30 12:15 15:50
八丈島発 → 竹島棧橋着	八丈島発
09:40 19:40	09:00 14:00 17:10

東海汽船HP>><http://www.tokaikisen.co.jp>  
ANA HP>><https://www.ana.co.jp>

ダイバーにうれしい! 快速宅空便

八丈島空港で荷物を預けると、翌日、自宅まで荷物を届けてくれるANAのサービス。手荷物は合わせて20kg以内なら1つ1,000円で送れるので、器材のあるダイバーにはうれしい。



CAPTER #06

INFORMATION

インフォメーション

お世話になりました!

DIVING SERVICE



八丈島ダイビングショップ アラベスク  
〒100-1401東京都八丈島八丈町大賀郷363-1  
Tel.04996-9-5838 電08:00 ~ 19:00  
<http://アラベスク.com>

八丈島一筋でガイドをしてきた小金沢昌博さん(写真左)が2015年9月に設立した、居心地のよさで女性ゲストからの人気も高いダイビングショップ。ウエットスーツのまま出入りも可能なうえ、広々としたシャワー室や夜間でも干せる器材場があり、使い勝手も◎脱水機があるほか、各種アメニティやフリードリンク、タオルの貸し出しなどサービスも豊富!

お世話になりました!

STAY



コンドミニウム ケンチャ・ルマ  
〒100-1401東京都八丈島八丈町大賀郷2297  
Tel.080-5000-6611  
<http://www.divingbase.com/kencha/top.htm>

1人でも団体でも、暮らすように寛げると評判の宿泊施設。空港から車で約6分、底土港から車で約10分。スーパーや飲食店が多い便利な場所に立地する。一泊4,000円~(1人部屋。2泊目以降3,800円~)。わんちゃんもOK。無料Wi-Fi完備、全館禁煙(屋外に喫煙スペースあり)

WEEKEND DIVING 八丈島

ウイークエンド・ダイビング 最強説

2017 Autumn [Hachijyojima]



©ocean+a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link  
<http://アラベスク.com>

関連情報HPへ